

令和7年度 第1回 横浜市大倉山記念館指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和7年8月22日（金） 14時07分～16時22分
- 2 場 所 大倉山記念館 第10集会室
- 3 出席者 高橋 義仁 委員長、西田 由紀子 委員、古本 悦子 委員、牟田 行秀 委員
- 4 欠席者 無し
- 5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	1 定足数の確認 2 委員会の公開・非公開について 3 審議事項：「令和6年度業務評価」
議事・ 委員意見等	1 定足数の確認 「横浜市大倉山記念館指定管理者選定評価委員会運営要綱」第7条第3項に基づき、委員数4名のうち4名の出席により定足数を満たしており、会議の成立を確認した。 2 委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市大倉山記念館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「令和6年度業務評価」の審議については公開とした。 3 審議事項：「令和6年度業務評価」 (1) 指定管理者による業務報告及び自己評価 指定管理者から、令和6年度の実績及び自己評価についての説明があった。 (2) 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価の要点について説明があった。 (3) 委員による評価 委員から指定管理者に対する評価内容の説明及び質問を行った。 《評価内容の説明》 1 「使命1 文化芸術をはじめとする市民の活動の場となる」について 《質疑》 委員 ロビーで高齢の利用者が資料の文字が小さく読みづらいと話しているのを耳にし、高齢者や子どもへの配慮として、コストをかけずに資料の拡大版を掲示するなどの工夫が必要ではないかと感じた。 指定管理者 配布から10年が経過したパンフレットについて、大倉精神文化研究所と協力しつつ、拡大版の掲示などすぐに可能な改善を進めるとともに、ロケ地マップ等の既存資料も含め、魅力がより伝わる案内資料づくりを今後も協議していきたい。

委員 ホームページ上にFacebook投稿が埋め込まれているが、他にもSNS媒体を運用しているのか。

指定管理者 当館ではFacebook、X（旧Twitter）、Instagramを運用している。

委員 ホームページ上にFacebook投稿を埋め込んでいる理由はあるのか。

指定管理者 Facebook投稿を埋め込んでいる理由として、運用している3つの媒体の中でFacebookが1番文字を書けること、リンクが有効化できることから採用している。

委員 それぞれの媒体のフォロワー数は把握しているのか。

指定管理者 Facebookが1,100名程度、Xが600名程度、Instagramが700名程度と把握している。情報発信ツールとして拡散力がない点が課題であると認識している。

委員 今期指定管理期間から新規事業として開始した、アーティストバンクについて、実績が伸び悩んでいるようだが、事業展開が難しいのか。

指定管理者 コンサート事業について、出演者の知人を中心につないで起用する方針となり地域関係者に依拠した構成に落ち着いていることや、コロナ禍でコンサート規模を縮小した影響もあり、十分に冒険的な取り組みができていない現状を課題として捉えている。今後のイベント企画の中でアーティストバンクの活用も検討していきたい。

【評価する点】

- ・市民・利用者、さらには横浜市内外の方々の利便性・公平性に配慮し、施設の維持管理にも注力されていて、基本的な使命に沿った運営がなされている。
- ・施設利用者数、施設満足度、スタッフ対応満足度はいずれも前年度から数字が上昇しており、非常に高い評価を得ている。
- ・Facebookをはじめとする各種媒体を活用した情報発信について、月ごとの変化に応じた主題設定や形式的な案内にとどまらない魅力的な内容の発信に尽力している。

【更なる取組を期待する点】

- ・令和6年度の実績データでは高い評価が得られているものの、市民文化活動の裾野拡大という視点からは、「利用者が固定化していないか」、「会議室等を使い慣れた一部の利用者に偏っていないか」などデータの表層だけで判断するのではなく、より深い分析が必要である。
- ・広報やパブリシティの手法についても工夫がなされていると理解しているが、対象者が広範に及ぶことを踏まえ、周知の在り方をさらに工夫することが重要である。
- ・SNS媒体での情報発信について十分に対象利用者へ届いていない印象があり、今後さらに発信力を強化しフォロワーの拡大を図ることで、施設としてのプレゼンスの向上につながることを期待したい。
- ・「これまでの繰り返し」ではなく、恒常的に改善と工夫を重ねる姿勢を期待したい。

2 「使命2 文化財を活用し魅力を発信するとともに、多様な市民の文化芸術活動の鑑賞及び参加機会を提供する」について

《質疑》

委員 文化財の活用と魅力発信を目的とする観点から、建物自体を文化財として紹介するパンフレット等の取組をどの程度実施しているのか。

指定管理者 建物紹介の取組として、予約が必要な各室場を一般開放する「オープンデー」を実施し、ボランティアガイドによる歴史的背景や意匠の説明を行うほか、グランドピアノ無料開放等を組み合わせて、ターゲットを広げた来館機会を創出している。また、大倉精神文化研究所の協力のもと、文化財としての魅力発信と普及に努めている。

委員 各イベントはいずれも高い満足度を得ているものの、満足度が80%台にとどまる事業が一部見受けられる。その残りの「満足に至らなかった」利用者の具体的な意見や指摘の内容はどのようなものか。

指定管理者 アンケートでは「悪かった」「よくなかった」といった評価に丸が付いていても記述欄が空欄であるケースが多く具体的な不満点は把握できていない。現状は事業関係者間で行う反省会で内容を精査する留まっている。今後は利用者が具体的な意見をより記入しやすい形式への改善が課題である。

委員 多様な市民とは障害の有無に限らず、海外ルーツの方や小さな子ども連れの方など幅広い層を含むとの認識から、特にバリアフリーへの考え方について教えていただきたい。

指定管理者 当館のバリアフリー対応については、駅からの長い坂道や館内にスロープがない現状を踏まえ、来館前の段階でタクシー利用や介助者同行等を案内している。また、階段負担を軽減する動線の提案、事前ヒアリングによる主催者等との連携支援、搬入区画の個別対応等対応している。

委員 バリアフリー対応の方向性が一定程度見えてきた段階で、来館者向けの「バリアフリーガイド」の作成や、建物の文化財的価値を踏まえた子ども向け鑑賞ガイド等を整備することで、利用者の興味・関心をより深められるのではないか。

【評価する点】

- ・来館者数や満足度の高さから、多様な市民に対し文化芸術の鑑賞・参加機会を着実に提供できている。
- ・幅広い年代を対象とした多数のイベントを実施し、いずれも高い満足度を得ている。
- ・特に子ども向けイベントの充実や、地域ボランティアを活用した地域一体型の取組が行われている。
- ・指定管理者がその特性を生かして活動の幅を広げ、市民の貴重な財産である文化財建築物の知名度と存在感を高め、愛される施設として文化芸術によるまちづくりの実現に着実に寄与している。
- ・コンサート、フラワーアレンジメント、花育教室のいずれにおいても利用者満足度が高い結果となっている。
- ・前年0件だったウエディング前撮り件数がSNSの効果により25件に達している。

【更なる取組を期待する点】

- ・大倉山記念館が有する歴史性や建築物としての魅力を基盤に、市民が文化芸術に親しみながら活用することで地域活性化の好循環を生み出し、その「大倉山らしさ」「横浜らしさ」ひいては「神奈川・日本らしさ」といった固有の価値を未来へ継承していく取組を一層推進することを期待する。
- ・花音コンサートの採算性について、財務状況を確認すると主催事業は収益を上げている一方で支出も増加し結果として収支が悪化している構図が見受けられる。こうした状況を評価すべきか否かは、事業のあり方に関する明確な方針が定まっていないと現場の混乱を招くおそれがあり、採算と事業目的とのバランスに関する運営方針の整理が必要である。
- ・大倉山記念館の特性や地域との連携を生かし、子どもから高齢者、障害のある方まで誰もが誇りと愛着を持てるまちづくりの推進に期待する。
- ・他地域の事例にある市民ファンドのように、市民が協働して文化財を支える仕組みも将来的に検討していただきたい。
- ・現在実施しているコンサート、フラワーアレンジメント、花育教室等の事業についても、SNSを活用した広報をさらに強化することで、より一層の来館者増加が期待できる。
- ・文化財保護や活用の観点から企画されたイベントの充実にも期待したい。

3 「使命3 文化芸術を媒介として地域の力を結びつける」について

《質疑》

委員 反省会ではどのようなことが話し合われているのか。オンライン会議等の手法は取られているのか。

指定管理者 反省会では、オンライン会議等も活用しつつ、事業実施後には共催・協力団体と速やかに集まり、実施アンケートを基に次回に向けた改善点を協議してしている。例えば、こどもフェスティバルでの課題を踏まえて同団体と共催するクリスマス事業に反映するなど、実務的な検討を重ね、関係者間で調整しながら運営改善を図っている。

【評価する点】

- ・年間プログラムが多岐にわたり、子どもから高齢者、外国ルーツの方まで各層・各世代に幅広くコミットするとともに、地域団体や市内文化施設とのネットワークを構築し、にぎわい創出や地域連携を進めている点は、文化芸術による文化的コモンズ形成の牽引役として高く評価できる。
- ・「小さな丘のクリスマス」で発生材を活用するなど、地域との連携による丁寧な工夫やきめ細かな努力が運営の付加価値を高めている。
- ・利用者の声を運営に反映させる取組を着実に進めるとともに、季節イベントの定例化によりリピーター獲得にも成功しており、さらにキッチンカー導入など内容の充実にも積極的に取り組んでいる。

【更なる取組を期待する点】

- ・今後は学生に限らず多様な市民との協働を文化を通じてさらに拡充するとともに、市民ファンドを含む全国の多様な協働手法も参考にしつつ、新たな連携の在り方を検討していくことを期待する。
- ・業務が多岐にわたる中、現場スタッフ・横浜市・ボランティア等の関係者間でデジタル技術を活用した情報共有を進めることで、事務作業や会議運営を効率

化し、会議体の負担軽減や回数の適正化につなげる工夫を今後検討すべきではないか。

- ・市民のための施設として現在の取組は適切と評価しつつも、今後は地域住民に加えてインバウンドを含む外部来訪者との交流の場としての機能にも視野を広げることで、さらなる活動の幅が期待できる。

4 「使命4 利用者の視点に立ち、持続可能性を高める施設運営を行う」について

《質疑》

委員 自主事業の収入が増えている一方で、支出がそれ以上に続いて増えており、これは一時的ではなく今後も続きそうな状況であるのか。

指定管理者 そのとおり。

委員 自主事業でこのような状況が続くなか、前撮りのように経費がほとんどかからない事業が増えれば、収支改善の余地はあるのか。

指定管理者 撮影関係の収益がこれまで他事業の財源として大きく機能していたものの、物価高騰等により従来どおりの運営が難しくなっているため、収支構造の見直しが必要な時期にあり、現在は改善に向けて精査を進めている。

【評価する点】

- ・大倉山記念館の重要性・貴重性を踏まえ、利用者視点に立った施設運営や法定点検の確実な実施、事故ゼロの継続など、安全性と快適性を担保した適正な管理運営となっている。

【更なる取組を期待する点】

- ・老朽箇所が多く指定管理者の対応範囲を超える部分については横浜市との協議を迅速に進め、日常的な不具合への即応体制を維持しつつ、抜本的な対応可能範囲を明確化する段階に来ている。

5 「使命5 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する」について

【評価する点】

- ・定型的な取組が着実に実施されている。

【更なる取組を期待する点】

- ・昨今の新型コロナウイルスの動向を踏まえても状況は過去のものではないため、引き続き基本的な感染防止策を継続していただきたい。

6 「その他」について

【評価する点】

- ・館運営において使命や収支、限られた体制下での定量指標を踏まえた努力を評価する。

	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間に一つ二つ程度であれば達成指標に届かなくとも、内容面で優れていたり、来館者数や満足度が必ずしも高くなくとも文化芸術としての奥行きや斬新性に意義がある事業も存在するため、収支を大きく損なわない範囲で、定量指標だけにとられない本質的な文化芸術運営にも視野を広げて取り組むことを期待する。 ・公的施設として市民の施設への意識醸成が重要であり、利用率だけでなく「自分のまちにこうした施設がある」という認識を高める観点から、将来を担う子どもへのプレゼンス向上は意義深く、鉄道をテーマとしたイベントは特に高い訴求力があるため、鉄道会社との連携も含め、子どもたちが楽しみながら施設への親しみを持てる取組を推進してほしい。 ・地域連携の深化や収益の多角化、デジタル活用の推進は既に取り組まれているものの、SNSのフォロワー拡大には魅力的なコンテンツ発信が不可欠であること、また外国人向けの多言語対応やQRコード案内などアクセシビリティ向上の余地がある。 <p>7 「総括」について</p> <p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の方針に沿って、業務報告・指標・重点取組・課題の内容を総合的に確認した結果、大倉山記念館は着実な業務遂行と専門性を生かした工夫ある運営を行っている。 ・各年代にわたる多様で魅力あるプログラムを通じ、鑑賞・参加機会を幅広く提供している。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを含む将来世代の変化にも対応した運営の進化が必要である。 ・今後はSNS等を活用した広報により、地域外を含むより広域の市民への認知拡大と利用者増につなげてほしい。 ・貴重な文化財建築としての魅力を内外に広く発信するため、オンラインコンテンツ等による紹介を強化し、さらなるプレゼンスの向上と地域交流拠点としての役割拡大を期待する。
<p>まとめ</p>	<p>本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。また、議事録については委員長確認後に確定のうえ、公表する。</p>